

## No.15 ヒグマによる人為的活動への被害状況

### 1. モニタリングの目的

ヒグマ出没状況、被害発生状況等を継続的にモニタリングすることにより、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用等との両立が図れているのかを把握する。

### 2. モニタリングの手法

ヒグマによる被害や危険事例、人間側の問題行動、施設の開閉状況をアンケートや通報、ヒグマ対策業務等を通じて情報収集。

### 3. これまでの結果

#### 【ヒグマによる人身被害】

- ・2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、斜里町でヒグマによる人身被害が2件発生した（表1）。なお、羅臼町および標津町においてはヒグマによる人身被害は発生しなかった。

表1. 斜里町 ヒグマによる人身被害の詳細

日付		ゾーン	行動段階	場所	内容
2017年度	10月9日	3	3	朱円	ヒグマの有害駆除中のハンターが、右顔面を叩かれ、左太ももをかまれた。命に別状はなかった。
2019年度	4月16日	3	3	峰浜	ヒグマ対策技術者育成のために捕獲に従事している猟友会のハンター1名が、現場の下見中に単独亜成獣のヒグマに襲われた。ハンターは当該ヒグマをその場で捕獲、自力で救助を要請した。

【ヒグマの問題行動による危険事例】

・2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、ヒグマの問題行動による危険事例は計65件（斜里町31件、羅臼町21件、標津町13件）発生した（表2,3,4）。

表2. 斜里町 ヒグマによる危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	5月5日	特	岩尾別	車に接近するヒグマが出没。
	6月29日	2	真鯉	沿岸にて北海シマエビ漁中の漁師が、ヒグマに追いかける。
	7月29日	特	知床横断道路	ヒグマ（単独）が停車した車両に接近して齧る事例が発生。車両に傷痕はなし（触れただけかもしれない）。
	8月24日	1	蛸岩	海上の定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。
	11月2日 ～3日	2	岩尾別	ふ化場敷地にヒグマが侵入し、畜養池の魚を食害。結果、駆除となった。
	11月15日	2	岩尾別	倉庫に手をかけて興味を示すような行動をとるヒグマの目撃情報。
2018年度	5月13日	特定	道道幌別	0歳1頭連れ親子が目撃され、母グマが車両に近づく。
	6月30日	特定	岩尾別	生ゴミの保管に使用している物置を気にし、周りをしつこく徘徊する単独ヒグマが目撃される。
	8月27日	1	蛸岩	ヒグマが海上の定置網に羅網する事例が発生。救助することが困難なため、駆除となった。
	8月31日	2	フンベ川河口	ヒグマが釣り人に走って接近し、逃げた釣り人が放置した魚を持ち去る。
	9月8日	特定	カムイワッカ	停車中の有人車両にヒグマが2～3mにまで接近したという目撃情報。
	9月12日	2	ウトロ西	釣りをしている男性がヒグマに背後から接近され、警察に助けを求める。
	9月30日	2	ウトロ西	海岸で釣りをしている男性がヒグマに5mにまで接近された。

日付	ゾーン	場所	内容	
	10月5日	特定	国道幌別	走行中の車に走り寄ってくるヒグマが確認される。
	11月3日	特定	道道幌別	1頭連れ親子グマが車両にブラフチャージする。
	11月8日	2	国立公園内森林	ヒグマが人に接近する事例が発生。
2019年度	4月30日	2	羅臼岳登山道	登山道にてヒグマに付きまといわれ、クマスプレーで撃退する事例が発生。注意喚起看板を設置。その後、付きまとい事例は発生しなかった。
	7月3日	特定	国道幌別	ヒグマが道路上に出没。車両に対して5mまで意図的に寄ってくるヒグマが目撃される。
	7月24日	1	蛸岩	海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。
	3月29日	2	国立公園内森林	国立公園内を散策中の利用者がヒグマに荷物を奪われそうになる事例が発生。ヒグマは荷物を一旦啜えたが、放して去ったとのこと。
	3月31日	特定	フレペの滝遊歩道	利用者がヒグマと遭遇。引き返そうとするとヒグマが後を追って3~4mまで接近してくる事例が発生。
2020年度	5月12日	特定	カムイワッカ	駐車帯にて駐車中（人が中居り、ラジオのなっている状態）の車両にヒグマが立ち上がり手をつき、車を揺らす。
	6月16日	特定	イダシュベツ橋	単独ヒグマが、クマに気付いて停車していた車両に接近した。
	7月31日	特定	幌別川	魚と人を関連付けて学習した可能性のあるヒグマが釣り人に接近したため、釣り人がクマスプレーを噴射。スプレーは当たらず、その後魚を再度奪われる。
	8月2日	特定	幌別川	単独ヒグマが人に接近。車に逃げ込むと、しばらく車両後方1mほどの地点で滞留。

日付		ゾーン	場所	内容
	8月4日	3	ウトロ東	漁業者の作業場近くにヒグマが出没して、建物脇に干してあったカップをいじる。
	8月7日	特定	幌別川	単独ヒグマが出没。漁業者が作業を中断して避難。ヒグマは漁業者を見ても逃げずに、作業場をうろうろしていた。
	8月7日	3	ウトロ東	漁業者の目の前に単独ヒグマが出没。係留している船外機にヒグマが乗り込む。声がけしても逃げなかった。
	8月8日	特定	幌別川	漁業者の作業場に単独ヒグマが出没。網を触る、残置されていた車両の窓を触っていた。
	8月15日	2	ウトロ西	番屋の窓にヒグマの足跡がついているのを漁業者が発見。
	8月18日	1	硫黄山登山道	新噴火口付近にて、登山者が極めて短時間目を離した際に単独ヒグマがザックをあさる。特に何かとられたわけではない。

表3. 羅臼町 ヒグマの問題行動による危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	5月28日 ～29日	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された（おそらく臭いのため）。昨年にも同様の被害があり、その他、屋外での作業中に近距離まで接近して来るヒグマが出没。現れるのは白い毛が特徴的な個体がほとんどのため、トイレを壊した加害個体も同一のヒグマと判断され有害捕獲された。
	6月6日	特定	相泊	土砂崩れの復旧工事現場にヒグマが出没。作業中の現場に接近したため工事を中断して作業員を退避させた後に追い払いを実施した。

日付	ゾーン	場所	内容
6月15日	4	岬町	漁業者が屋外で作業している日中、海岸の住宅地にヒグマが出没。既に追い払いを受けているにもかかわらず、再度出没する行動から有害捕獲となった。
6月16日	4	海岸町	夜間、住宅の裏庭にヒグマが侵入。コンポストを荒らし逃走。その後、付近の道路山側斜面にいるところを発見したため追い払いを実施した。
6月27日	特定	知床横断道路	観光客の車両とヒグマが近距離遭遇。車は道にヒグマがいたため一時停車した。ヒグマは車両を気にすることなく2～3mの距離まで接近してきた。
7月9日	4	海岸町	ヒグマ出没対応中に居合わせた観光客と山側から住宅地に侵入してきたヒグマが数十mの距離で遭遇。観光客は車両に退避。
8月17日	2	羅臼岳 登山道	屏風岩付近で登山者がヒグマと遭遇。ヒグマは藪内にいたが、気付いた時には後方1m程の近距離にいた。威嚇行動は無く、その後ヒグマは離れて行った。その他、環境省職員がスズラン峠付近において距離5m程でヒグマと近距離遭遇した。ヒグマは木に登って唸っていた。環境省職員は下山した一方で、そのままヒグマの横を通過した登山者もいた。
8月22日	3	北浜	土砂崩れの復旧工事現場で工事作業中にもかかわらず近距離に接近を繰り返すヒグマが有害捕獲となった。
10月3日	4	岬町	モセカルベツ川河口に出没したヒグマが海岸を市街地方向に移動を続け、オッカバケ漁港に侵入しようとしたため有害捕獲となった。港内の釣り人は車両に退避。

日付		ゾーン	場所	内容
2018 年度	6 月 20 日	4	海岸町	民家裏の魚干し小屋がヒグマによって破壊された。小屋にはまだ魚は干されておらず、人の鼻では魚の匂いは感じられなかった。
	6 月 27 日 ～29 日	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。漁業者が爆竹等で何度も追い払いを行ったが、行動改善しなかったとのこと。人為物に執着し、人を気にしていない行動から有害捕獲となった。
	7 月 18 日	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出沒せず捕獲には至らなかった。
	7 月 23 日	3	峯浜町	ペットとして飼育されていたヤギ 1 頭がヒグマによって食害された。加害個体は捕獲対象と判断された。
	8 月 1 日	4	海岸町	飼い犬 2 頭がヒグマによって食害された。加害個体は捕獲対象と判断された。
	8 月 3 日	4	春日町	サケマスふ化場で、稚魚用の飼料がヒグマによって食害される被害が発生。飼料は屋内にあったが、ヒグマは施錠されていない扉から侵入したもよう。数日後には電気柵が設置され、被害は 1 回のみであった。
	8 月 6 日	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された。2016、2017 年にも同様の被害があり、2017 年には 1 頭のヒグマを有害捕獲している。今年度はすでに漁業活動は終了しており、番屋も無人であるため対応は行わなかった。なお来年度以降、漁業者自身で番屋周辺に電気柵を設置することとなった。
	8 月 16 日	4	礼文町	住宅街に 21 時過ぎにヒグマが出沒。ヒグマは走行中の車両に向かってブラフ

日付		ゾーン	場所	内容
				チャージを行い、車両と接触。車両は、助手席側のドアが大きくへこんでいた。夜間であったため、追い払いを実施した。
	8月28 ～30日	3	幌萌町	清掃センター敷地内に置かれている冷蔵庫から、ヒグマによってエゾシカの死体が捕られた。28日の被害発覚後、捕獲檻を設置したが加害個体の捕獲には至らなかった。30日の被害発覚後、電気柵を設置したところそれ以上の被害は発生しなかった。
2019年度	7月11日	4	海岸町	ヒグマが飼い犬1頭を食害。捕獲檻が設置されたが、ヒグマの捕獲には至らなかった。DNA鑑定によって加害個体は昨年度も飼い犬を食害したヒグマであったことが判明（ID：RT オス）。
	9月4日	4	麻布町	ヒグマが運送会社の残渣運搬用トラックを囲んでいた電気柵を破壊。
2020年度	4月12日	2	知床岬	赤岩付近において、利用者がヒグマに追跡された。距離3mの位置まで接近してきたため、クマスプレーを噴射した。

表4. 標津町 ヒグマの問題行動による危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	6月29日	3	崎無異地区	民宿横で発生した亜成獣駆除対応。オオハナウドについて個体が民宿周辺に居つく。緩急帯を整備するも対応中に度重なり出沒したため駆除。
	7月5日	3	忠類地区	例年デントコーン畑の被害が発生している牧場にて、処理前の廃乳にクマがついた。夜間のみ出沒のため捕獲檻で駆除。

日付	ゾーン	場所	内容	
	7月21日	3	茶志骨地区	敷地内に度重なり出沒。廃乳にクマがつき、捕獲檻を設置するも、捕獲できず。
	7月23日	3	忠類地区	市街地パークゴルフ場で近隣住民とニアミス。
	7月24日	3	古多糠地区	牧場敷地内に度重なり出沒。廃乳にクマがつき、夜間のみ出沒のため捕獲檻で駆除。
2017年度	8月13日から順次	2	金山地区	親子連れ（仔2頭連れ）が国道脇でキツリフネを採食しに出沒し続けた事例。車や人間にまったく警戒せず、追い払いの結果、特定の車両に警戒するようになるも11月に入ってもなお付近に出沒。餌付け行為の疑いもあるが確認できず。駆除対象であるが、未だ捕獲できず。
	9月21日	3	古多糠地区	ヒグマ被害発生中のデントコーン畑付近の別の農家が、放牧中の牛を探しに行ったところ、デントコーン畑についていたと思われる親子連れと遭遇。農家は畑に逃げて被害なし。
2018年度	7月30日	3	古多糠地区	牧場主が牧場入口でヒグマ親子連れと遭遇。ヒグマは人を気にせず向かってきたため、トラクターで追払った。
	8月28日	3	忠類地区	忠類パークゴルフ場から市街地にかけてヒグマが横断。緊急駆除を実施。
2019年度	5月12日 ～13日	3	古多糠地区	複数の牧場で亜成獣が目撃される。同一個体と思われる亜成獣が住宅前に出沒したことから有害捕獲。
	6月下旬 ～7月下旬	4	市街中心部隣接地区	市街地の端に位置するサーモンパークやサーモン橋、防災道路において亜成獣が頻繁に目撃された。その後、同個体と思われる亜成獣がより市街中心部に近いサーモン科学館の棟横などに出沒するようになったため、箱わなにより捕獲を試みたが捕獲に至らず。

日付		ゾーン	場所	内容
	8月上旬	3	川北地区	川北地区の北部に位置する個人所有の家庭菜園で作られていたスイートコーンが食害される。住宅も近いことから箱わなを設置。8月31日に加害個体と思われるメス1頭を捕獲した。
	9月8日	3	薫別地区	薫別サケマスふ化場の水路で親魚がヒグマの食害を受けた。電気柵や自動撮影カメラを設置。また定期的なパトロールも実施した。ふ化場には複数の個体が誘引されていることが判明。
2020年度	なし。			

【利用者の問題行動に起因する危険事例】

- ・2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、利用者の問題行動に起因する危険事例は計47件（斜里町43件、羅臼町4件）発生した（表5,6）。なお、標津町においては利用者の問題行動に起因する危険事例は発生しなかった。

表5. 斜里町 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付	ゾーン	場所	内容	
2017年度	9月20日	2	幌別川河口	ヒグマに驚いた釣り人が荷物等を置いたまま走って逃げる状況発生。
	9月22日	2	幌別川河口	ヒグマが出没し、釣り人が走って逃げる事例が発生。
	10月13日	2	幌別川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
	10月14日	特定	幌別川河口	釣り人の残置していた魚がヒグマに奪われた。
2018年度	5月14日	特定	国道幌別	1歳2頭連れ親子グマが出没したため、利用者が車から降車して撮影しようとしたところ、ブラフチャージを受けた。
	6月9日	特定	町道岩尾別	親子グマが出没中、カメラマンが接近撮影し、親グマが木の下、コグマが木に登るといった状況が発生した。
	6月16日	特定	道道幌別	0歳1頭連れ親子が出没し渋滞が発生。マナーの悪いカメラマンがクマスプレーとカメラを構えヒグマを追いかけまわす様子が目撃される。
	6月25日	特定	知床横断道路	1歳2頭連れの母グマに利用者が接近していたため、環境省ARが止めに入った所、ブラフチャージを受けた。
	6月30日	特定	国道幌別	1歳1頭連れ親子が出没。ヒグマ観察のための車両とバイクにより親子が分断される状況が発生。
	7月10日	特定	町道岩尾別	0歳1頭連れ親子に3mほどまで接近し撮影を行うカメラマンが目撃される。
	9月15日	特定	道道岩尾別	観光客が降車してヒグマに接近しているという目撃情報。
	10月29日	特定	カムイワッカ	道路上で撮影しているカメラマンにより、親子グマが分断される状況が発生。

日付		ゾーン	場所	内容
2019 年度	5 月 4 日	特定	道道岩尾別	道道脇にヒグマが出没。道路脇で滞留するヒグマを撮影するために、車両 5 台ほどが停車、5～10 人が降車し撮影する事例が発生。
	5 月 4 日	特定	町道岩尾別	岩尾別橋近くの道路脇に 1 歳サイズのヒグマが出没し渋滞が発生。車両や降車した観光客等とヒグマとの距離が近かったため、追い払いを実施。
	5 月 4 日	特定	町道岩尾別	単独亜成獣サイズのヒグマが出没。ヒグマから距離 5m の位置に椅子を置いて、観察している人がいたとの情報が寄せられた。また車両 10 台程が停車し、渋滞が発生していたとのこと。
	5 月 5 日	特定	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。観光客 2 名が降車し撮影する事例が発生。
	5 月 5 日	特定	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。10 人が降車し、道路から撮影する事例が発生。
	5 月 5 日	特定	町道岩尾別	道路脇に出没したヒグマに利用者が 1m ほどまで接近し撮影する事例が発生。
	5 月 12 日	特定	町道岩尾別	ヒグマが道路脇に出没。車 3 台が停車し、1 名が近距離で降車していたとの情報が寄せられる。
	5 月 12 日	特定	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。車 2 台が駐車し、1 名が約 10m の距離で観察する事例が発生。
	5 月 12 日	特定	町道岩尾別	道路脇にヒグマが出没。複数人が降車し、ヒグマからの距離約 10m の位置で撮影する事例が発生。
	8 月 19 日	特定	国道幌別	道路法面に 0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。10 台程車両が停車し、降車する人多数確認。
	8 月 21 日	特定	国道幌別	道路法面にいる 2 頭連れ親子ヒグマを観察するために、渋滞が発生。利用者が降車し、10m ほどの距離でヒグマを観察する事例が発生。

日付	ゾーン	場所	内容	
8月30日	特定	町道岩尾別	道路沿いでヒグマを追いかけまわし、撮影する利用者が確認される。	
8月30日	特定	国道幌別	2頭連れ親子ヒグマを観察するために、渋滞が発生。母グマが真横に停めた車両に対しブラフチャージをする事例が発生。	
9月8日	特定	岩尾別川	魚を捕食するヒグマに対し、徒歩で接近し撮影する複数の利用者が確認される。	
9月11日	特定	岩尾別川	ヒグマが出没している河川の橋の上に大多数の人が集まり、混乱状態になる事例が発生。交通事故の危険性があった。	
9月15日	特定	岩尾別川	河川に出没したヒグマを撮影するため、利用者が10名以上滞留、橋の上に30台以上の車が停車し、渋滞発生。近距離でヒグマを撮影する利用者も確認される。	
9月20日	特定	岩尾別川	河川に出没したヒグマを、川へ降りて近距離で撮影する利用者が確認される。	
2020年度	4月16日	特定	ブユニ岬	ブユニ岬付近の林内道路近くで1歳2頭連れ親子が出没し、カメラマンが20mほどの距離から撮影。
	4月18日	特定	ブユニ岬	ブユニ岬付近の林内で、ゴミ袋入りのクマ糞が発見される。
	5月12日	特定	国道幌別	見晴橋駐車帯横山側林内の倒木上に1歳2頭連れ親子が滞留。カメラマンが駐車帯にて降車し2時間程撮影し続ける。最終的に子グマー頭が軽く威嚇突進する。
	5月24日	特定	道道岩尾別	岩尾別S字カーブにて0歳1頭連れ親子が出没し、渋滞が発生。降車し近距離から撮影。
	6月16日	特定	国道幌別	見晴橋付近の山側法面に出没した1歳2頭連れ親子を、カメラマンが降車し接近して撮影。
	6月30日	特定	道道岩尾別	絶景入り口付近に単独メス成獣サイズのヒグマが出没し、観光客が車を横づけ、距離20mほどで降車する。

日付	ゾーン	場所	内容
7月23日	特定	道道岩尾別	道道知床公園線93号沿いに出没したクマの観察のために、渋滞が発生。2名ほどが降車し、10mほどの距離であったとのこと。
7月25日	特定	道道岩尾別	道道知床公園線93号知床五湖付近の道路脇に単独のヒグマが出没し、渋滞・降車が発生。降車した1人が注意を受けても車に戻らず。
7月25日	特定	道道岩尾別	道道知床公園線93号知床五湖付近の道路脇に単独のヒグマが出没し、渋滞・降車が発生。ヒグマとの距離は5mほど。
7月31日	特定	幌別川	釣り人が釣った魚をヒグマに奪われる。この釣り人はヒグマが出没しているため釣りをやめるよう再三注意を受けたにも関わらず、釣りを続けた。
8月5日	特定	知床横断道路	1歳2頭連れ親子が出没し、渋滞が発生。バイク1台が距離10mほどから観察。他の観光客からの注意喚起も効果なく、観察を続けた。
8月21日	2	三段の滝	河口に単独ヒグマが出没し、釣り人が釣果およびゴミを残置して逃げた。
8月31日	特定	知床横断道路	出没した0歳2頭連れ親子に対して、利用者が窓からお菓子をばらまき、子が食べる。
9月7日	特定	道道岩尾別	岩尾別橋周辺に出没した単独ヒグマの撮影のために、カメラマン1名が意図的に接近。注意を聞かず、距離15mほどまでヒグマに接近する。

表 6. 羅臼町 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付	ゾーン	場所	内容	
2017 年度	無し。			
2018 年度	9 月 2 日	2	クズレハマ川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
	9 月 3 日	特定	オショロコツ川河口	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われた。
2019 年度	無し。			
2020 年度	7 月 14 日	特定	知床横断道路	0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。複数台が停車しており、ヒグマの進行方向を塞ぐ車両もあった。
	7 月 15 日	特定	知床横断道路	0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。親子グマの進行方向を車両で塞ぎ、移動を妨害している利用者がいたとのこと。

【地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例】

- ・2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は計37件（斜里町9件、羅臼町27件、標津町1件）発生した（表7, 8, 9）。

表7. 斜里町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	5月8日	特定	知床自然センター	廃油置き場の油がヒグマに舐められる事例が発生。
	10月28日	4	ウトロ東	住宅の干し魚がヒグマに奪われた。
	11月7日	4	ウトロ西	住宅の干し魚がヒグマに奪われた。
2018年度	5月27日	特定	岩尾別	0歳1頭連れの母グマが物置に放置された生ゴミを食べる。これをきっかけに母グマは捕殺対象となる。
	6月12日	特定	岩尾別	0歳1頭連れ親子を目撃し、追い払い中に母グマがブラフチャージをする。
	8月中旬	3	峰浜	農地に大量の食品関係系ゴミが投棄され、ヒグマが餌付く状況が発生。
2019年度	なし。			
2020年度	3月28日	2	真鯉	一時養鹿施設に単独ヒグマが出没。シカの死体およびシカの餌を食べられた。
	3月28日	2	真鯉	一時養鹿施設の柵内に単独ヒグマが侵入し、生きているエゾシカを捕食した。
	3月30日	2	真鯉	一時養鹿施設に単独ヒグマが出没。シカの餌を食べていたとのこと。

表8. 羅臼町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	9月6日	3	幌萌町	水産加工場の残渣に誘引されたヒグマが周辺民家の隣接地に出没。残渣を荒らした明確な物証はなかったが、残渣置き場の状況から食害したと判断され、警戒していたところ、10月13日に狩猟により当該個体が捕獲された。
	～ 10月13日			

日付	ゾーン	場所	内容	
10月29日	4	海岸町	夜間に漁業番屋の倉庫の扉がヒグマに破壊され内部に侵入、倉庫内に干してあった魚がヒグマに奪われた。	
11月2日	4	共栄町	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。	
11月3日	4	共栄町	外に干してある魚を奪おうとするヒグマが目撃される。	
11月5日	4	船見町	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。	
11月12日	特定	北浜	夜間に外に干してあった魚がヒグマに奪われた。	
11月13日	4	岬町	日中に住宅地の海岸でヒグマが目撃される。ヒグマは住宅に干してあった魚を奪っていたため、捕獲された。	
2018年度	7月14日	4	岬町	住宅地の山側斜面で、広範囲にわたってヒグマ痕跡を確認。海岸側でヒグマによって食べられたと推測される新巻鮭を発見した。
	8月16日	4	礼文町	住宅街で、19時過ぎに生ごみを入れているゴミ箱がヒグマによって破壊される被害が発生した。当該個体の発見には至らず、追い払いはできなかった。
	8月17日	4	麻布町	運輸会社のトラックが壊されているのが発見され、痕跡からヒグマによる被害と断定された。トラックは水産加工残渣の運搬にも使用されていたため、匂いに誘引されたものと推測された。12～16日の間は無人であったため、正確な被害日は不明。
	8月12～18日	4	知昭町	水産加工場の排水溝がヒグマによって荒らされていた。被害発覚は17日朝。加工場は12～16日の間は無人であったため、正確な被害日は不明。
	8月19日	4	麻布町	水産加工場の加工残渣にヒグマが執着する事例が発生。

日付	ゾーン	場所	内容	
8月22日	4	麻布町	水産加工場の加工残渣にヒグマが執着する事例が連続で発生。被害者からの通報が遅かったため、対応が遅れ連日の被害となった。当該個体が同加工場に出没したところを有害捕獲した。	
9月21日	3	峯浜町	酪農家が沢に投棄していた廃棄乳にヒグマが執着。	
11月2日	4	岬町	夜間、番屋の軒先に干してあった魚がヒグマに奪われ、番屋の窓ガラスが破壊される被害が発生。捕獲檻によって、加害個体と推測されるヒグマを有害捕獲した。	
11月3日	4	岬町	日中の住宅地に干してある魚がヒグマに奪われていたため、有害捕獲された。	
2019年度	7月19日	4	春日町	水産加工場で物置の扉が壊され、中に保管していた加工残渣をヒグマに食べられた。
	7月27日	3	峯浜町	ヒグマに飼い犬を食べられた(2019年度2件目)。
	8月3日	4	春日町	ヒグマに飼い犬を食べられた(2019年度3件目)。
	8月8日	4	麻布町	運送会社で水産加工残渣運搬用のトラックが2日連続でヒグマによって破壊された。
	9月4日	4	八木浜町	八木浜町の住宅で1階部分カーポート内に置いていた生ごみがヒグマに食べられた。ヒグマは逃走し、捕獲には至らなかった。
	9月5日	4	知昭町	知昭町で軽トラックの荷台に乗るヒグマが目撃された。前日の夜間には、同トラックの荷台に積んでいた魚がヒグマに食べられていた。
	9月10日	4	岬町	岬町で住宅前に置いてあった生ごみが入ったポリバケツを壊そうとしているヒグマが目撃された。ヒグマは住民によって追い払われた。
	9月30日	4	共栄町	共栄町で住宅裏の海側を歩いているヒグマが目撃された。目撃地点で不法投棄生ごみが確認された。

日付		ゾーン	場所	内容
	10月25日	4	岬町	海岸を移動するヒグマが目撃された。ヒグマは投棄された生ごみを食べていたためその場で捕獲した。
2020年度	7月1日	特定	昆布浜	長時間道路脇に滞留するヒグマを有害捕獲した。捕獲地点付近の消波ブロック上に、大量の不法投棄生ごみを確認した。
	9月8日	4	春日町	民家裏山側斜面でヒグマが目撃された。目撃地点でヒグマが齧ったトウモロコシの芯1本を確認した。

表9. 標津町 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	無し。			
2018年度	8月22日	3	金山地区	親子連れが出没。付近にコーヒーの空き缶が大量に放置され、誘引された痕跡を確認。
2019年度	無し。			
2020年度	無し。			

【漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例】

- ・2017（平成29）年度から2020（令和2）年度にかけて、漁業活動に関する危険事例は計13件（斜里町9件、羅臼町4件）発生した（表10,11）。なお、標津町においては漁業活動に関する危険事例は発生しなかった。

表10. 斜里町 漁業活動に関する危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017年度	6月29日	2	真鯉	沿岸でシマエビ漁中の猟師がヒグマに追いかけられた。
	8月24日	1	蛸岩	マスの定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。
2018年度	8月27日	1	オキッチウシ	ヒグマがマスの定置網に羅網。保護することができなかつたため、駆除となった。
2019年度	7月24日	1	蛸岩	海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。
2020年度	8月4日	3	ウトロ東	漁業者の作業場近くにヒグマが出没し、建物脇に干してあったカップをいじる。
	8月7日	特定	幌別川	単独ヒグマが出没。漁業者が作業を中断して避難。ヒグマは漁業者を見ても逃げずに、作業場をうろうろしていた。
	8月7日	3	ウトロ東	漁業者の目の前に単独ヒグマが出没。係留している船外機にヒグマが乗り込む。声がけしても逃げなかった。
	8月8日	特定	幌別川	幌別橋下の漁業者の作業場に単独ヒグマが出没。網を触り、残置されていた車両の窓を触っていた。
	8月15日	2	ウトロ西	番屋の窓にヒグマの足跡がついているのを漁業者が発見。

表 11. 羅臼町 漁業活動に関する危険事例の詳細

日付		ゾーン	場所	内容
2017 年度	5 月 28 日	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された（おそらく臭いのため）。昨年にも同様の被害があり、その他、屋外での作業中に近距離まで接近して来るヒグマが出没。現れるのは白い毛が特徴的な個体がほとんどのため、トイレを壊した加害個体も同一のヒグマと判断され有害捕獲された。
2018 年度	7 月 18 日	2	滝ノ下	漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出沒せず捕獲には至らなかった。
2018 年度	8 月 6 日	2	滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された。2016、2017 年にも同様の被害があり、2017 年には 1 頭のヒグマを有害捕獲している。今年度はすでに漁業活動は終了しており、番屋も無人であるため対応は行わなかった。なお来年度以降、漁業者自身で番屋周辺に電気柵を設置することとなった。
	8 月 6 日	特定	昆布浜	番屋の近くにヒグマが出没。作業員が走って逃げた際に転んで足を負傷した。
2019 年度	なし。			
2020 年度	なし。			

## 【施設の開閉状況】

### ■知床五湖

- ・地上遊歩道において、利用調整地区制度が始まった2011年以降のヒグマ遭遇回数と中止回数を図1、図2に示す。
- ・ヒグマ遭遇回数は2019（令和元）年度が最多の219（ヒグマ活動期186、植生保護期33）回、次いで2018（令和元）年度が134（ヒグマ活動期119、植生保護期15）回であった（図1）。
- ・ヒグマ活動期のツアー中止回数は2012（平成24）年度が最多の39件、次いで2018（令和元）年度および2019（令和2）年度が25件であった（図2）。
- ・最もヒグマ出没が少なく、地上遊歩道の安定供用が可能だった年は2013（平成25）年度であった。

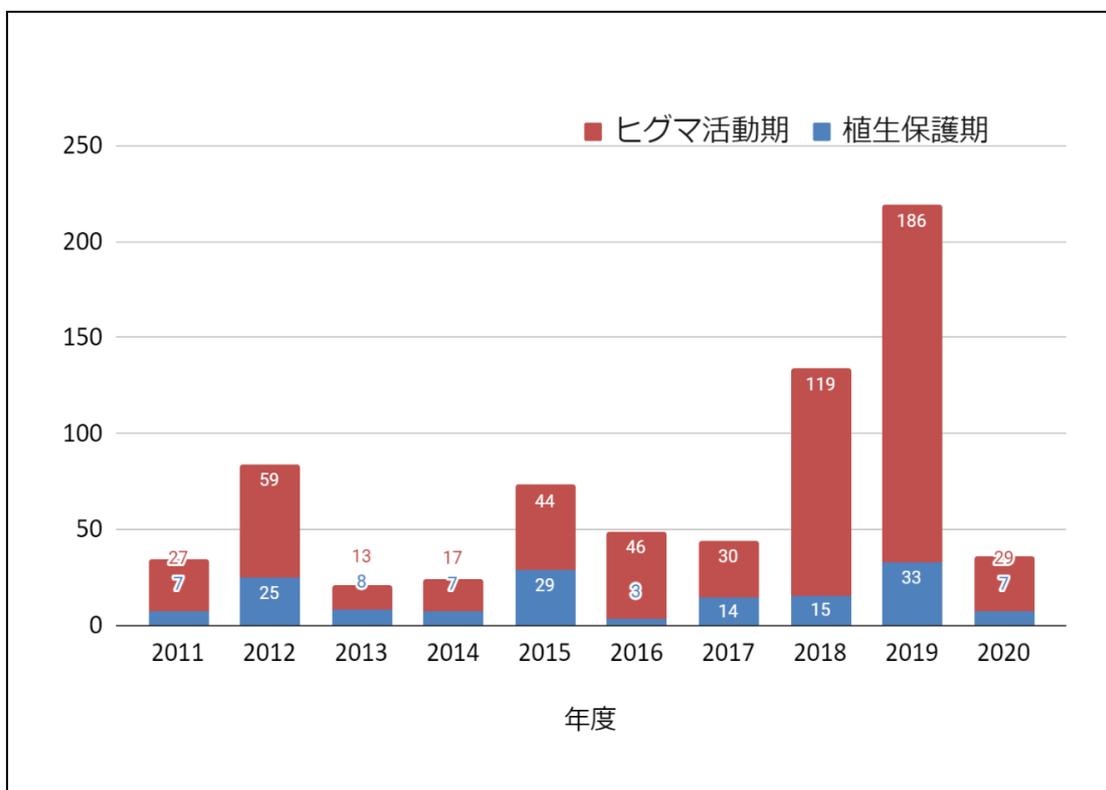


図1. 知床五湖地上遊歩道におけるヒグマ遭遇回数

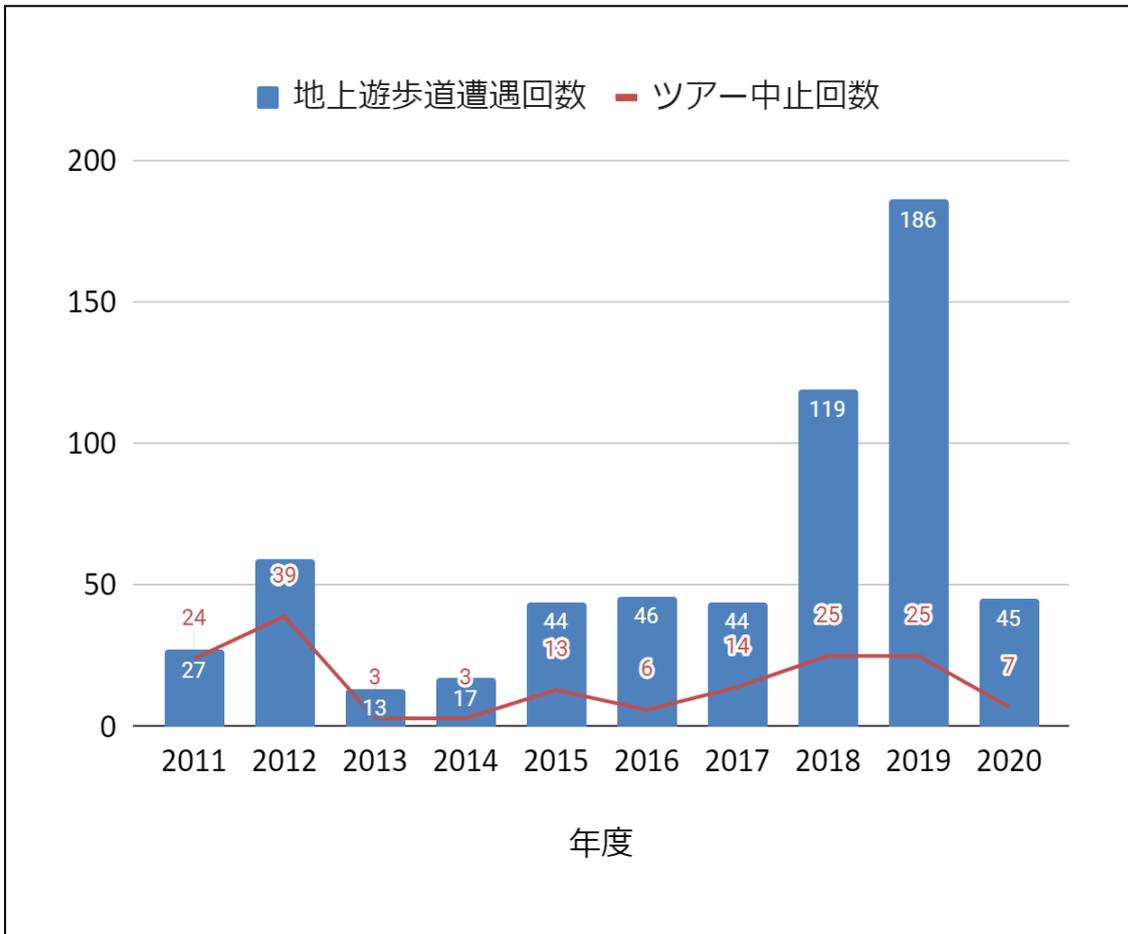


図 2. 知床五湖地上遊歩道遭遇回数とツアー中止回数

### ■フレペの滝遊歩道

- ・フレペの滝遊歩道において、2009年度以降のヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数を図3に示す。
- ・2015年度以降、ヒグマの目撃件数は減少傾向にあった。
- ・ヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数は、2015（平成27）年度が最も多かった。

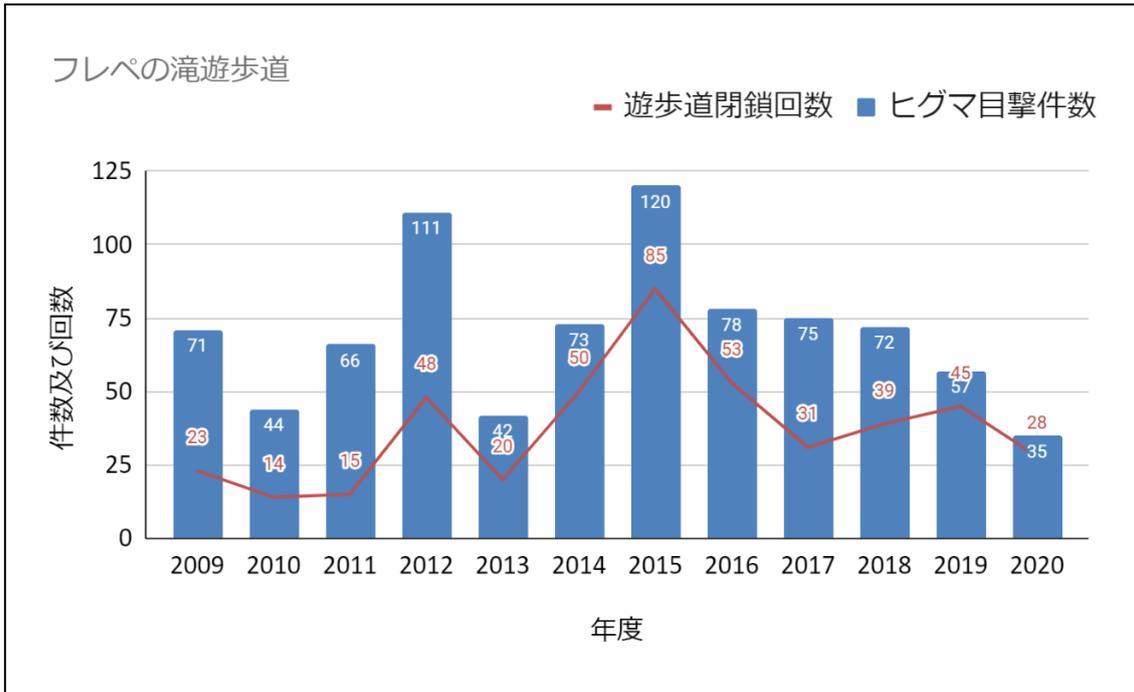


図3. フレペの滝遊歩道におけるヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖回数

【ヒグマ有害捕獲頭数】

・2017（平成29）年から2020（令和2）年にかけて、斜里町・羅臼町・標津町で有害捕獲されたヒグマは計106頭であった（表12）。そのうち、有害捕獲されたメスヒグマは40頭であった。

表12. 斜里町・羅臼町・標津町で有害捕獲されたヒグマの年齢・性別ごとの捕獲頭数一覧

年度・年齢/町・性別		メス			オス		
		斜里	羅臼	標津	斜里	羅臼	標津
2017年	0歳	0	0	0	0	0	0
	1歳	1	0	1	5	1	0
	2歳	1	0	0	1	0	0
	3歳以上	5	3	0	3	5	2
	小計	7	3	1	9	6	2
2018年	0歳	0	3	0	0	1	0
	1歳	0	0	0	1	1	0
	2歳	0	0	0	1	2	0
	3歳以上	6	3	0	3	2	1
	小計	6	6	0	5	6	1
2019年	0歳	3	0	0	2	0	0
	1歳	1	0	0	5	3	0
	2歳	1	0	0	0	2	1
	3歳以上	5	3	1	9	5	1
	小計	10	3	1	16	10	2
2020年	0歳	1	0	0	0	0	0
	1歳	0	0	0	1	0	0
	2歳	0	0	1	0	2	0
	3歳以上	1	0	0	3	3	0
	小計	2	0	1	4	5	0
合計		40頭			66頭		

【農林水産業被害】

- ・斜里町における農業被害額は2017（平成29）年が最も大きかった（表13）。
- ・羅臼町、標津町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。

表13. 斜里町で発生した年毎の農業被害および被害面積

目標値	2016(平成28)	2017(平成29)	2018(平成30)	2019(令和元)	2020(令和2)	2021(令和3)
4,972千円 548a	5,524千円 609a	8,727千円 852a	5,180千円 557a	6,127千円 561a	3,533千円 347a	

## ● No. 16 知床半島のヒグマ個体群

### 1. モニタリングの目的

ヒグマの人為的死亡個体数の情報収集を行い、海洋生態系と陸上生態系の相互関係、生物多様性が維持されているかを把握する。

### 2. 評価手法

人為的死亡個体数に関する情報収集、ヒグマ個体群長期トレンド調査（糞カウント調査、自動撮影カメラ調査、観光船からの目撃件数等）を行う。

### 3. これまでの結果

#### 【メスヒグマの人為的死亡個体数】

2017（平成 29）年度から 2020（令和 2）年度にかけての斜里町・羅臼町・標津町におけるメスヒグマの人為的死亡個体数は、累計 53 頭となった（表 1）。

表 1. 斜里町・羅臼町・標津町におけるメスヒグマの人為的死亡個体数

年度	2017（平成 29）	2018（平成 30）	2019（令和元）	2020（令和 2）	2021（令和 3）
捕獲頭数	21	15	14	3	

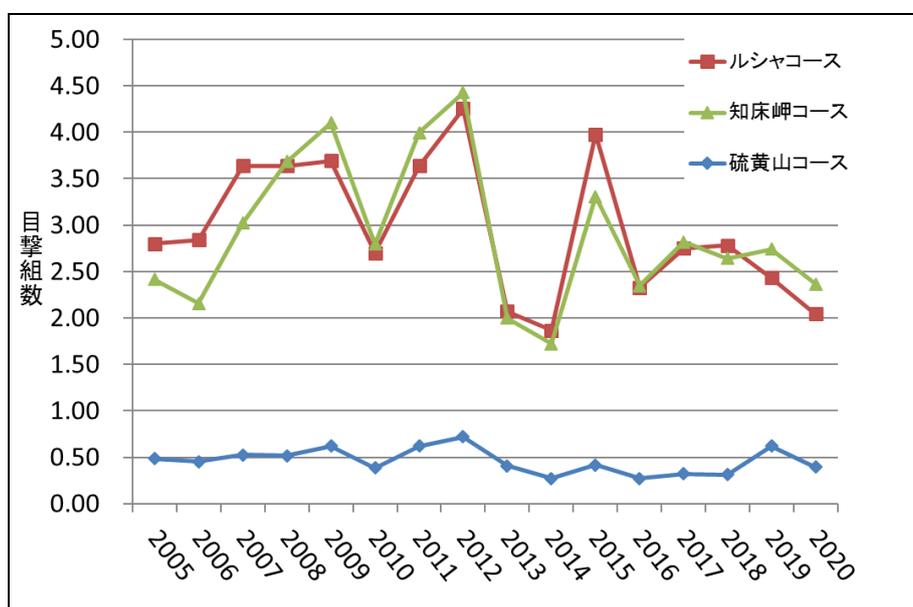
## 【ヒグマ個体群長期トレンド調査】

### 観光船からの目撃頭数

(実施主体：知床ウトロ海域環境保全協議会)

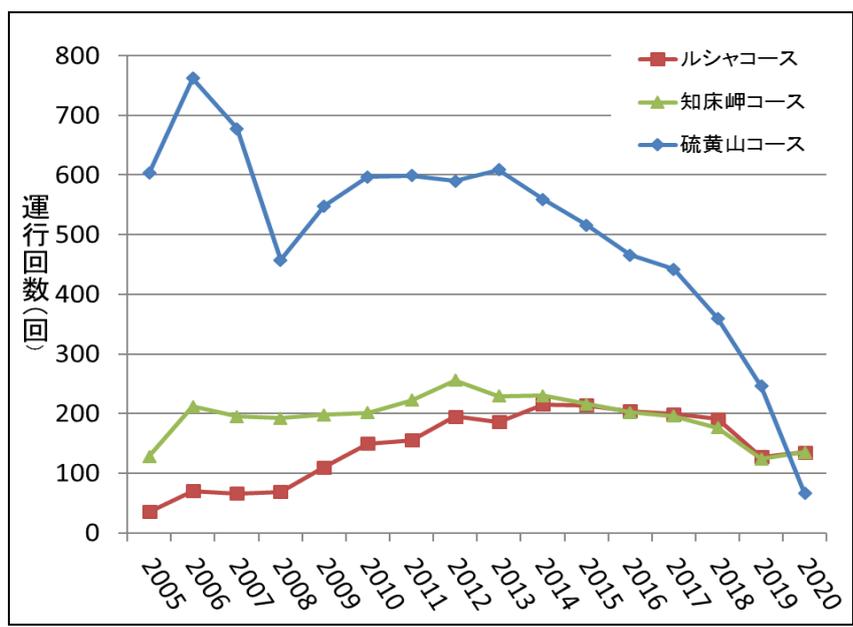
ヒグマの動向を把握するため、斜里側の小型観光船運営会社が記録している 2005 年以降のヒグマの目撃情報を取りまとめた。

・各コースとも、運航 1 回あたりのヒグマ目撃組数がやや減少した。ルシャコース、知床岬コースは昨年に比べ単独の目撃組数が減少し、親子の目撃組数が増えている。



データ提供：知床ウトロ海域環境保全協議会

図 1. 各コースにおける運航 1 回あたりのヒグマ目撃組数（親子は 1 組として集計）



データ提供：知床ウトロ海域環境保全協議会

図 2. 各コースにおける運航回数の年次変化